平成二十七年三月投句　【芦屋海岸　芦屋釜】

梅香る枝に浮き球ぶら下がり
春うらら関守石の丸き影　勝利
春うらら冬の制服重たげな
さ緑に染まる播りこぎ木の芽和え
海原へ流れし時報鳥渡る　佳与子
春昼や居間に厨に電子音
玄海の波にまぎれて帰る鴨
春潮の波防波堤ときに越え　節子
どこからも白き辛夷の見ゆる庭

待合の屋根にものの芽立ちにけり
漁小屋に鍵かけてあり鳥曇　光子
落日に雲の湧き出で島おぼろ
木五倍子穂を垂れ初めてをり利休の忌
浜深く寄せゐる波や涅槃西風　真理子
外露地へ百年を経し山桜
三代経し白無垢飾る雛の間
誕生を祝ふ餅踏み山笑ふ　由紀子
強東風や漁師たむろの船溜り